

柞は、その杜もり〔瓶原みかのほらの郷中がうちゆう西村さいむらにあり、西の山は、そやまを柞山は、そやまといふ〕鶯うぐひすの瀧たき〔西村さいむらの入口いりぐちにあり〕

衣ころもの瀧たき〔同所どうじよにあり〕真田川さなだがは〔西村茶店さいむらちやの左ひだりにあり〕

後 撰 は、そ山岑みねのあらしの風をいたみふる言の葉をかきぞ集る 貫 之

後 拾 いかなればおなじ時雨に紅葉する柞は、その杜もりの薄くみるらん 堀川左大臣

新 古 時わかぬ波さへ色にいづみ川柞は、そのもりにあらし吹らし 定 家

国分寺こくぶんじ〔同郷河原村かはらにあり、本尊は阿弥陀仏あみだなり、聖武帝しやうむていの御願ごがんにして、開基は行基大士ぎやうきとぞ。日本国毎にっぽんに一寺を建て

国分寺こくぶんじと号す〕菜切石なきりいし〔同郷井平尾村みひらをにあり、弘法大師こうぼう野草を切初給ふとなり〕